

進む産学連携

大学にとって産学連携は重要テーマの一つ。東京都に立地している東京理科大学、芝浦工業大学、工学院大学、首都大学東京、東京都市大学の学長に現状などを聞いた。

大学学長

インタビュー

「産業界にとって大学の敷居が低くなってきたように思います。」

「約30年前までは大学が私企業のために何かやるのは良くないと考える風潮があった。だが民間企業が大学と協力して利益を上げ、社会が活性化されて税収も増えることにより、大学や地域への投資が増えるといった考

え方になった。当大学は『社会と産業界に開かれた大学』を目指したい」

「産学連携の課題は何でしょう。」

「産学連携、そして社会連携は大学の使命である」という個々の職員の意識が重要だ。自分の

「共同研究のアイデアは企業と大学の技術に興味がある者同士と一緒に食事するといった雰囲気

「産学連携、そして社会連携は大学の使命である」という個々の職員の意識が重要だ。自分の

「その一環としてポラ

東京都市大学



北澤 宏一学長

連携で実践教育を

で育つ。だがこれまでで大学は『共同研究をま

狭い分野の研究だけでなく、学生も課題解決型の実践教育に巻き込むことが求められる。良いテーマを見つけないはきつかけづくりも必要だ」

「企業との共同研究や議論が学生への刺激になり、人材育成にもつながる」

前許可が必要な産学連携の規制ばかりが目立った面もある。その点でも私立

「企業経営者や技術者を招いて講演してもらっている。企業の課題を

「その一環としてポラ